

エシヤンジュ
学生×教師:対話
フランス語学習と向き合う

田村 優侑
TAMURA Yu
神戸大学
yuyu47981@gmail.com

中條 健志
CHUJO Takeshi
東海大学
takeshijo?tsc.u-tokai.ac.jp

前田 美樹
MAEDA Miki
甲南女子大学
ma.eda31qui@gmail.com

● はじめに

本テーブルロンドの目的は、対話を通じて学生と教師とがお互いにフランス語学習と向き合う機会をつくることである。そこでは、学生たちは学習上の悩みや疑問について教師から意見をもらい、教師たちは学生からの問いにこたえることで自身の日々の実践をふりかえる。参加者が輪になり、table ronde (円卓) という本来の意味に立ち返ることを目的に企画された。

この企画の元となったのは、2016年6月に開催されたランコントル月例会において、『学生からフランス語教員への質問』と題して行われたアトリエである。そこでは、関西圏のいくつかの大学の教職課程にいる学生が参加し、「第二外国語を学ぶ意義」や「なぜフランス語を教えているのか」、「どのようにフランス語を教えているのか」、また「なぜフランス語教師になったのか」といったテーマのもとで、学生と教師とのあいだで活発な議論が交わされた。

当初は、教師が学生たちの疑問に答えることを想定した催しであったが、ふたを開けてみると、学生から投げかけられる問いを通じて、フランス語を学ぶこと、あるいは、教えることの意味について、むしろ教師たち自身が考えさせられる場となった。普段のアトリエとは異なったこの試みは盛会のうちに終わり、続編を望む声が挙がった。

そこで、年次大会のテーブルロンドでも学生と教師との対話の場を設けたいと考え、この企画を立ち上げた。月例会でおこなったアトリエでは「教える」ことが主要なテーマとなったが、このテーブルロンドでは「学ぶ」ことについて考える会にしようと考えた。

今回ゲストに迎えたのは大阪市立大学、岡山大学、京都大学、甲南女子大学、神戸大学で現在フランス語を学び、今後もそれを続けていこうと考えている8人の学生である。当日は参加者を8つのグループに分け、各グループにゲストの学生1人をおいた。

当日は①自己紹介(5分)、②事前アンケートにもとづく学生からの報告(5分)、③報告内容のまとめとそれをもとにしたプレゼンテーションづくり(20分)、④グループごとのプレゼンテーション(30分)、⑤全体でのフィードバック(10分)という流れで行われ、学生たちが普段抱えている疑問や悩みを教師たちと共有し合った。教師たちは時にはフランス語学習の先輩として、また時にはフランス語教員という立場から学生たちと向き合った。教師たちの他にも、教科書の編集に携わる出版社の方々や、アトリエ報告者として参加した現役の学生たちもそこに加わった。

本論考の目的は、当日の様子や参加者からのフィードバックを提示しながら、教師と学生との対話の意味や意義について考える材料を提供することである。

● ^{エシヤンジェ}対話の様子

当日は当初の予定を上回る 60 名近くの参加者がいたことから、6~7 名のグループを 8 つつくり、会場の広さなどを考慮しながらそれをさらに 2 分割し、4 グループをひとつの「クラス」として活動してもらった。なお、グループのメンバーは各人にグループ番号 (1~8) を割り当てる形で無作為に決めた。

グループごとのカラーは初めの自己紹介の時間からすでに特徴的であった。ひとりずつ順番に自己紹介をしていくグループもあれば、リーダーがひとりひとりにインタビューしながら進めるグループ、まず学生に話させようとするグループなど、初めて会ったメンバー同士があらたにその場で関係性を構築していく様子は、さながら新年度第 1 回目の授業のようだった。

そして、学生からの事前アンケートにかんする報告が続く。アンケート項目は「氏名、所属・専攻、学年」および自由記述欄を除くと、「フランス語学習歴」、「なぜフランス語を学んでいるのか」、「そのきっかけは何か」、「なぜフランス語を今後も続けようと思っているのか」、「そこでの目標は何か」、「普段の学習法」、「フランス語を学ぶにあたっての楽しいこと、面白いこと」、「困ったこと、悩んでいること」を問うものであった。学生からの報告を 1 グループ約 5 分間のプレゼンテーションにまとめることをあらかじめ告知していたので、教師たちは真剣にメモをとり、情報不足の内容については、必要に応じて質問をおこなっていた。参加者数の都合もあり、各グループに配置した学生はひとりだったため、5~6 人の教師を相手に発言するのは多少の緊張もあったかもしれないが、どの学生も非常に積極的に自分の意見を発表していた。そこでは、教師と学生との相互的なコミュニケーションが活発におこなわれ、本ターブルロンドの目的である ^{エシヤンジェ}対話が早くも実践されている様子がうかがえた。

次にプレゼンテーションの準備に入った。約 5 分間という時間制限以外は、発表の形式と内容についてはとくに指定せず、各グループのリーダーに委ねた。自己紹介の時間と同じく、ここでもグループごとにさまざまな活動が展開された。各メンバーにテーマを割りふり学生を紹介する、学生にインタビューする、全員参加で芝居を演じる、模擬授業をおこなうなど、自分たちのグループに参加する学生とフランス語のかかわりを、どのように分かりやすくかつ面白く発信するか、各所で工夫がこらされていた。

ターブルロンド開始直前の打合せでは、学生たちにはどこか緊張感が漂い、我われ運営の側も、教師と学生間の交流が有意義なものになるかどうか、期待と不安を感じていた。しかし、時間が過ぎるにつれ、学生たちの表情も徐々に和らいでいき、教師と学生双方から多くのアイデアが提供され、より良いプレゼンテーションを目指した熱い議論が交わされていたと思う。

準備時間も発表時間も短いながら、プレゼンテーションの本番はターブルロンドの佳境ともいえる盛り上がりを見せた。実際のところ、事前アンケートの質問項目があまり具体的なものではなかったため、学生たちの回答も当初は大まかな内容のものが多かったのだが、それらを教師たちが上手く掘り下げていた。自分たちの「教え子」の力をどのように引き出すかを、各グループが競い合っているようにもみえた。

また、当初は想定していなかったことだが、発表中の教師たちの姿も普段の授業を垣間見るようで非常に興味深かった。同業者でありながら、また残念なことに、教師がお互いの教える姿を見る機会は稀である。しかし、ここで図らずも各人が同僚たちの「模擬授業」を受けるこ

とになったのは、本企画の副産物といえるかもしれない。

本来はこの後にフロア全体での意見交換の時間をとるべきであったが、時間の都合上、というよりむしろこちら側の段取りが十分でなかったため、プレゼンテーションの準備と本番に多くの時間を費やしてしまい、参加した学生たちから一言ずつ感想をもらって閉会とした。

本テーブルロンドが、フランス語教育に携わる者にとって、普段の授業では気付いていなかった、あるいは見過ごしていた学習者の声に耳を傾ける、貴重な機会となっていれば幸いである。また学習者とはもちろん、教員同士で交流することの楽しさ、面白さを発見する機会となっていれば、いっそう有意義だったといえるだろう。参加してくれた学生たちには、ここで得た経験や知識、情報を、今後のフランス語学習に大いに役立てて欲しい。また同時に、今後のフランス語教育の世界において、学習者にフランス語を「教える」役割だけでなく、学習者に「寄り添う」役割も持ち合わせた教師が増えることを切に願う。

● 参加者からのフィードバック

以下に、当日の参加者にたいして実施したアンケートの結果を提示する。紙幅の都合により掲載できなかったものもある。また、重複する内容や個人情報にかかわるものについては省略するか、表現を一部改変した。

1. 学生への事後アンケート

Q.1 「本日のテーブルロンドに参加したことで、どんな学びがありましたか？」

他の学生さん達の意識の高さに驚いた。／先生方と1対6で話すことは緊張したが、自分のフランス語に対する悩みを聞いていただいととても良い経験になった。／学部の内容をこえたものでも、大学教員と相談すれば学ぶことができる。／活用の身につけ方やリスニング、シャドーイングの効果的な取り組み方などを具体的に学べた。／「勉強」、「暗記」と思って取り組むよりも、体に覚えさせるようにしたほうが話す／聴く能力の向上につながる事が分かった。／動詞はそれ単体で暗記するのではなく、SVOCをまとめて発音したり、自分で例文を作って繰り返したり、よく使う動詞を10個くらいピックアップして何十回も書いたりなど、それくらいしないとダメなんだと痛感した。／「同じ科目名で同じ単位数なのに、先生によって進度が違うのはどうなのか」と質問したのだが、それに対する返答から、先生方も学部やその年のクラスによって様々に苦労や工夫をしていることが分かった。／「フランス語で話すことを入り口として、専門分野とつなげようとしているのは良い」という言葉をいただいた。／自身のフランス語学習の目標を再確認できた。／他の大学で学ぶ仲間の境遇や状況、目標を知れたし、その方へのアドバイスが自分にも応用できそうだったので有意義だった。／フランス語を今後フィールドワークで使っていく上で、どう気を付ければいいのかを聞くことができた。／発音が好きであることを伝えると、自作の発音プリントを下さった方がいた。また人の輪が広がり、有意義な時間となった。／家でできる勉強法を知ることができた。

Q.2 「本日のテーブルロンドで得た学びは、ご自身の今後のフランス語学習にどのように活かすことができそうですか？」

Youtube や TV を観るなど、一見遊びのような勉強法もあることに驚き、これならできそうだと思った。／DELTA、DALF の要約作文に挑戦する。／ピケティなど経済学の本を原書や英語版で読んでみる。／留学中に絶対必要な、目の前の人と意思疎通するためのフランス語力を身につけたいと考えており、そのための指針として大変参考になった。／留学

まであと3ヶ月。日本でもできるだけ多くの時間をフランス語学習に費やしたい。／アウトプットする時間を多くとりたい。／フランス語が2年生以降必須にならない学部にいる学生として、必修の第二外国語の授業がよりよいものになるよう、意見を求められることがあったら、先生方に協力できたらと思う。／他のグループの発表で聞いた、活用の練習法や聴解のレベルアップの仕方は今後そのまま活かしたい。／語学力を維持するために、新聞記事を読むとか、検定を受けるといった分かりやすい目標をたてる。／フランス語の得意なまわりの学生たちから良い刺激を受けた。／今後につながる人脈ができた。／卒業研究などでフランス語を使う機会に活かせる情報が多かった。／仏検や DELF に挑戦したい。

Q.3 「その他、ご意見ご感想をお寄せ下さい」

もう少し1対1で先生方と話す機会があれば良さそうだった。／とても勉強になった。／普段全く出会わない先生と意見交換ができた。／あれだけ多くのフランス語の先生や教科書作りに携わる人に会う機会はなかなかなく、様々な視点からの意見が聴けたのが良かった。／将来フランス語を使うことができるフィールドが案外たくさんあることを知り、勉強していく上でのモチベーションになった。／今後こういう機会ですでに自分を出していけるように頑張りたい。／色々な大学の先生方と話せる機会が少ないため、貴重で楽しい経験だった。／仲間を見つけたり、基礎を大切にしながらこれからもフランス語学習を続けたい。／他の人も同じような悩みを持っているとわかったので、周りとのコミュニケーションを取りながら、自分に合う勉強法を工夫して見つけていきたい。／フランス語学習を諦めかけていたが、モチベーションが上がった。／先生方とお話しする時間が短めだったので、もう少し深い所まで話せる時間があればよかった。／フランス語そのものより、他の人と話をして知ることができたのが一番印象深かった。／様々な社会人と触れることができて新鮮だった。／意識の高い他の学生の姿勢を知れたので、良い所を自分にも取り入れ、自分なりの勉強法を確立したい。

2. 参加者へのアンケート

※ゲストに招いた学生を除く参加者に実施したもの。

Q. 本日のテーブルロンド『学生×教師＝「対話」』にご参加頂いた感想をご記入ください。

学生の悩みに共感できた。／理系の学生が外国語学習を継続しづらいという現状を初めて知った。／フランス語を勉強したいがフランス文学には全く興味がない、といった学習者向けの教材や授業が少ないことが分かった。／どんな教材で、どんなやり方で学んでいたか、もう少しつつこんで聞ければよかった。／学生から話を聞きだす時間が足りなかった。／グループに複数の学生がいて、様々なモチベーションや悩みを知ることができた。／Instagram、Lang-8、Skype、Twitter、Facebook、留学生など、アウトプットの方法が思っていた以上にたくさんあった。／動詞の活用など、ほかの大学の人も悩んでいることが分かった。／教えている学生以外の声を聞けて有意義だった。／参加した学生はモチベーションの高い人が多いと思うので、そうでない学生の声も聞けるともったいと思う。／出版社の者なので、先生方の感想をうかがう機会はあるが、学生と直接話す機会は無かったので貴重だった。／一部の大学、学部以外では、中級以上の学習者のニーズに応えることができる授業を設置するのは難しいと感じた。／時間が少し短かった。／同じ大学の学生、先生などの組み合わせがあったので、事前に振り分けできれば幅広い話や意見を聞けたのではないかと。／「理系のためのフランス語」という発想は新鮮だった。／参加したモチベ

ーションの高い学生の要望を満たす授業が必要なのではないか。／フランス語と「何か」の部分に学生に伝える（学生が発見する）ことが大事だと思った。／教師が悩んでいる以上に、学生はさらに多面的にいろいろな悩みを持っていることが良くわかる時間だった。／学習に対する悩みを、同じ苦勞を体験してきた立場から、先生方にアドバイスしていただくととても参考になるのではないか。／学生からの反応が興味深く、何十年前からあまり変わらないものだと思った。／面白くてエキサイティングな試みだった。／できればパッシブな学生の意見も聞きたい。／学生に対してどうアドバイスするのが最良か、よくよく考えることができ、またそれに対する反応からも多くを学べる良い機会だと思った。／「もっとやりたい」、「学びたい」の声と、「自信をもって宣伝すればいい」という意見に教員の側が励まされた。／学生間の相互の影響の様子が面白かった。／単位のためとはいえ、学生が自分なりにフランス語学習を動機づけようとしていることがよく分かった。／4年間の苦勞ではプロとしてフランス語を使いこなして仕事をするレベルに達するのは難しい。／学生の大多数はフランス語を専門として人生を設計するわけではないので、それ以外の未来の方向性を開示する必要がある。／先生によって進度が違うのはなぜか、という疑問に驚いた。手厚く、接続法までいかずとも、着実に学習内容を消化するのが望ましいと思いこんでいたが、「接続法までいったクラスのほうが分かりやすかった」という意見だった。クラスの作業内容の流れがものすごいカッチリきままっていて、一回一単元で完結する。二回に分けて一単元やると混乱するとのことだった。時間をかければよいというものではなく、授業運営の枠をガッチリつくるという工夫の仕方もあるのだなと考えさせられた。／学生の生の声を聞く機会をこれからも作っていきたい。そのためには、どのように心を開いて語ってもらうかが重要である。／どんな風に学生が考えているのか、といったことを意識しながら、答えを引きだしたり、アドバイスを与えていけるようになったらと思う。／将来の仕事や今の学生生活とのかかわりを、フランス語の実用的な面、学習方法や教材、キャリアの直結として求めていることがはっきりと分かった。／アトリエの方法としては少し疑問に思う部分もあった。／プレゼンの目的をもう少し具体的に言ってもらえると有り難い。／情報提供なのかどうなのか、もう少し学生にも食い込んでほしいかった。／ワークを作ることに専念しすぎて、「悩みに答える」というテーマそのものを深く追求できたのか疑問が残った。／キャリアデザインという観点から、出版社の意見（フランス語を学ぶ学生の将来像）がとても参考になった。／学生が会話だけでなく、ライティングやリーディングをやはり必要だと感じていることが分かった。／短い時間なので、予め学生が準備する質問のテーマを絞ったほうが話し合いがしやすいと感じた。／それぞれの学生の言語学習にまつわるストーリーが非常に興味深かった。／「フランス語を使って将来何をしたいか」が学習の動機になっていることが多かった。／自分がフランス語を学び始めた頃のことを思い出して、生暖かく見守ってしまった。／ある程度学習した学習者のニーズに十分応えられていないという印象をもった。／自分から動き、行動することを促す役割も教員の重要な役目だと自覚した。／学習することに前向きな大学生が多くいることに安心した。／フランス語の活かし方、生活への取り入れ方などを学生に提示できたらと思う。

最後になるが、本企画に協力してくれた学生メンバーには深く感謝する次第である。ワーク・ショップとして十分にデザインされておらず、特に時間が不足していたり、話し合いのテ

一マの設定が明確ではなかったため、必ずしも充実したテーブルロンドではなかったかもしれない。一方で、そこにさまざまな「輪」が生まれたことは間違いないだろう。参加者からのコメントやアドバイスを参考に、今後も学生参加型のテーブルロンドやアトリエを実施していきたい。